

子供の目線で、自然と遊び・自然を守ろう。

梶自然愛好会

当会は、平成9年度に丹波市山南町梶自治会の有志中心に約90名で発足し、現在の会員は約120名で活動しているが、発足時からの会員の過半が高齢の為、活動が制約される状況で若年層の入会を心待ちにしているのが現状です。

自然に親しむのを目的として一般に広く呼びかけている活動としては、

- ◎ 登山・ハイキング・山野草・自然探訪 (山菜・ホタル・秋の虫・魚釣り等) の計画運営。
- ◎ 登山コース・ハイキングコースの開拓及び維持管理。

※ モデルコース ; 播丹ふれあいトレッキングコース (丹波と播州の境約3.5km)

自然環境保護を目的とした活動としては、

- ◎ 自然環境調査 (野鳥・魚類を中心とした水棲生物・ホタル各々の棲息状況調査)
- 野鳥棲息調査一野鳥全種を夏期・冬期に分けて年間約90回調査 (約4時間/回)
平成17年度より継続実施 (毎年度 A4判100ページ以上の調査報告を100部作成)
平成21年度夏期 ; 58種。冬期 ; 71種確認。



ハイタカロツミ・ノスリ・ハヤブサ等 6 種確認



タナゴ類 5 種を主体に 30 種棲息確認

- 魚類等の棲息調査…加古川水系を年間100回 (短時間を含む) 以上調査。
平成13年度より継続調査 (他団体との合同調査含む)。
加古川本流 : 42種・牧山川 ; 31種・岩屋谷川 ; 28種・応地古川 ; 30種各々確認。
※ 応地古川 (約3,000㎡) : オオクチバス・ブルーギル未確認。
タナゴ類 ; タイリクバラタナゴ (主) ・シロヒレタビラ・ヤリタナゴ・アプラボテ
- ホタル棲息調査一森のホタル調査隊 in 丹波に協力。
調査委員・活動費等で全面協力。
- ◎ 自然環境啓蒙 (地域の自然環境を小中学生・地元住民中心に啓蒙)
○ トライやる・ウィーク受入れ (平成14年より) 一地元2中学校対象 (野鳥・水棲生物・ホタル等の調査活動)



カイエビ。恐竜の時代からの使者、山南地域各所に〈左〉ナガレホトケドジョウ。山南地域各所の山中の谷川で元気に泳ぐ〈中〉シロヒレタビラ。応地古川の『トンガリササノハガイ』と並ぶ宝〈右〉

平成22年度丹波市立山南中学校・同和田中学校受入れ。

- ゲストティーチャー一地元3小学校対象 (総合学習・自然体験学習等指導)
平成21年度丹波市上久下小学校 (4年) 0同和田小学校 (3年)。
- 魚類等展示一藤原利正宅で、水槽10杯等に、地元の魚類 (30種以上) ・甲殻類・亀类等、飼育・展示。
小学生・小学校教員・地元住民の見学多い。
- ◎ 自然環境保護活動 (直接的な保護活動)
○ 応地古川 (和田地区応地) 一地元の意向 (埋

め立て) ⇒ 種々の啓蒙活動により (保全へ)
○ 加古川河床掘削工事変更 (戸舟橋下流約250m 付近) 一ワンドの保全 (約400㎡)
※ メダカを初めとした魚類等の繁殖場で有る事を県土木事務所にアピール。

以上が我梶自然愛好会の活動の概要ですが、当会の活動の基本は『遊び心で楽しくやろう』であり、決して義務での活動・無理をしておの参加は求めておりません。

皆様に早急に取り組んで頂きたい件があります。

野鳥は、棲息環境の変化には即対応し移動しますので、自然環境の試験紙的な存在と言えます。

当方の野鳥棲息調査域 (丹波市山南地域西部) に於いては、平成16年の台風23号の水害を契機に、野鳥の個体数が水害直前の1割以下に激減し、平成17年度を底に徐々に個体数の復活傾向に有りましたが、平成21年冬期に減少に転じ大変危惧を致しております。

そこで皆様方への提案ですが、留鳥・渡り鳥夫々の代表種数種の棲息状況調査を各地で調査しその情報を持ち寄り、棲息マップを作り県下全域の棲息状況を把握し、調査を継続する事により、その変移を把握し、自然環境変動の指針として役立て様では有りませんか。



魚類捕獲調査時の希少種確認の記録写真



小学4年生総合学習川の調査協力の一瞬



河川掘削改修時に当方の要望で残ったワンド

■ 連絡先

代表者 藤原利正

TEL : 0795-76-1584

FAX : 0795-84-1584

■ 主な活動地名

兵庫県丹波市山南地域

学ぶことから始めよう自然保護

篠山自然の会

篠山自然の会は2000年9月に結成された。隣の丹波市にある丹波自然友の会の活動に刺激され、数人のメンバーで立ち上げた。

結成して10年を経た現在、145人の大所帯になった。

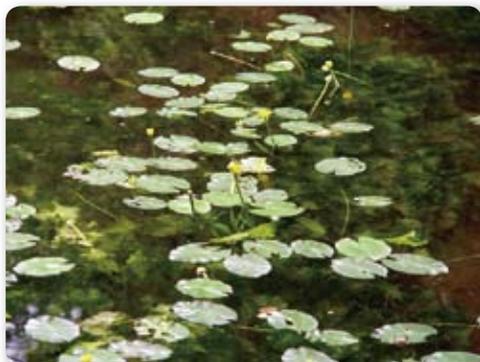
毎月1回実施する自然観察会を主とした例会も110回を超え、偶数月に発行する会報「みどりの多紀」も60号を数えている。

昨今「自然を大切に」「地球に優しく」と自然環境を見直す機運が高まってきた折、「自然保護」とは何をすべきか、私たち市民が何ができるかと問うた時、先ず自然を学ぼう。学ぶことで自然と友達になれば自然を大切にすることになるのではないかと結論に達した。

篠山自然の会の目的を「自然を学ぶことにより自然を大切にすることや心を育み、自然を愛し、自然に関心を持つ人の交流の輪を広げる」とした。



早春の花（セツブンソウなど）の観察



オグラコウホネ 兵庫県絶滅危種Aランク

毎月の例会は篠山市内は元より近隣の地域にも出かけたり、時々泊を伴う信州にも足を伸ばしている。植物、動物、岩石地質まで幅広い観察会や調査を実施し、その結果を会報で会員に報告している。10周年を契機に何か残せるものにまとめる計画も進めている。

特別な講師を招く以外は会員同士で教え合い、学びあっている素人の集団であり、趣味の域を出ていないが、昨日より知ることが増え、新しい仲間との交流が広がり、自然を大切にすること、自然に対して関心は確実に高まっている。



セツブンソウ〈左〉
ササユリ〈中〉
モリアオガエル卵塊〈右〉



国指定天然記念物 千年モミ



クリンソウの自生地観察



千年モミの説明を聞く

篠山市内には名木巨木が多く点在する。国指定の天然記念物2県指定8件あり、兵庫県絶滅危種も数十種あり、篠山市内は自然がまだまだ豊富だ。

最近多紀連山で発見されたクリンソウの大群落は4haあり、日本有数の規模である。5月上旬から6月上旬には御獄山腹に桃源郷が現れる。



アズマイチゲ



キタヤマブシ

■連絡先

代表者 樋口清一

〒669-2413 兵庫県篠山市畑市296

■E-Mail : higuchi296@leto.eonet.ne.jp

TEL : 079-556-3445

FAX : 079-556-3445

■主な活動地名

篠山市内・丹波地域

太古の生き物と語ろう!そして地球の未来を見つめよう!

篠山層群をしらべる会

「篠山層群をしらべる会」はタンパリュウの第一次発掘調査の後結成されました。発掘調査にボランティアで参加した丹波市、篠山市の有志が集まり恐竜化石だけでなく、もっと地道に篠山層群そのものを調査しようということになり、2007年5月結成されました。それまで個人的に長年調査研究、化石収集活動をされていた方も加わっておられ、結成後の年数はまだ若いですが、それらの貴重な資料も活用させていただいています。



篠山層群の露頭での化石調査

1. 会員数 現在14名で活動中
2. 主な活動内容
 - ・月に1回の月例会では篠山層群の地質調査、化石調査等のフィールドワークを中心に篠山層群にかかわる学術論文の輪読会も行っています。
 - ・篠山層群・丹波帯の研究や、産する化石の調査、収集を行っています。

- ・小学校をはじめ、自治会など地域の人たちの化石発掘体験やフィールドワークなどの補助活動を行っています。(一部有償)
- ・宮田の哺乳類、爬虫類や恐竜化石の発見・発掘調査に当初からかわり、篠山市に設置されている「太古の生き物市民研究所」において、「人と自然の博物館」と連携し、週1回の化石調査活動を行っています。
- ・「人と自然の博物館」で化石クリーニング技術の習得や化石研究に必要な現世生物の骨格標本作りなどを研究員の指導もとで行っています。
- ・篠山市の「脊椎動物化石保護・活用委員会」、丹波地域の「恐竜・哺乳類化石を活かしたまちづくり推進協議会」に参加し、市民グループの立場から意見提言を行いました。



宮田で発掘された岩石の石割り調査作業



市民研究所で発見されたトカゲ類の前顎骨〈左〉
円増氏が40数年前に発見された木賊の化石〈中〉
円増氏が40数年前に発見されたカイエビ化石〈右〉

3. 今後の活動予定
 - ・篠山層群の露頭の調査活動及びマップ作り
 - ・他地域の地層研究グループとの連携
 - ・宮田産出の化石調査の深化継続
 - ・教育活動への補助活動の強化
4. その他
 - ・篠山層群のどこから化石が発見されても不思議ではないと思います。恐竜だけにとらわれず、地道にコツコツと調査活動をつづけていきたい(生きたい)です。



哺乳類、爬虫類や恐竜化石が発見された露頭

私たちがおすすめする素敵な生き物、自然、風景、活動!

篠山層群には恐竜だけでなく太古に生きたたくさんの生き物が化石となって私たちに語りかけてくれています。今見つかっているだけでも植物ではシャジクモ類、トクサ類や裸子植物など。動物では貝類、甲殻類、両棲類、爬虫類、恐竜類、哺乳類など書き上げたらきりがありません。今よりももっともっと豊かな自然があったのです。生き物の化石だけではなく、生き物の巣穴跡や這い跡、ウンチらしきものまで残っています。また、当時の地面のひび割れや雨滴の跡など、まさに石そのもの、地層そのものが多くのことを語りかけてくれています。

人類誕生より遥かな太古からの囁きにしばし耳を傾けてみませんか! 全盛を極めた恐竜たち、生まれただけの哺乳類たちの囁きに! そして私たち人類の未来を、地球の未来を見つめてみませんか!

■連絡先

代表者 大森作之
〒669-2437 兵庫県篠山市糶ヶ坪甲14-1

■E-Mail : daisakusake@yahoo.co.jp

TEL : 079-552-0126

FAX : 079-552-0126

■主な活動地名

丹波市・篠山市(篠山層群)

修験道を蘇らせたクリンソウの大群落を発見 多紀連山のクリンソウを守る会



ヤブデマリ〈左〉
ギンリョウソウ〈中左〉
デワノタツナミソウ〈中右〉
クリンソウ〈右〉

2008年の6月上旬、多紀連山の最高峰御獄(793m)中腹でクリンソウの群落が発見された。その山はかつて修験道の山として栄え、錫杖の音と法螺貝の響く連山であった。クリンソウが咲き乱れる様は桃源郷にしか見えない。クリンソウ



クリンソウとヤブデマリ

ウは仏塔の九輪に例えられるように、輪生する花が上へ上へと咲き昇る。この群落を調査した結果、その場は4000㎡以上に有り、推定16万株の群落であった。これほどに広がった原因は近年シカが増え、シカの忌避植物であるため、群落が広がったと推定される。

兵庫県一番、いや日本一かも知れない広いクリンソウ群生地をどのように保護すればよいかと、発見したグループを中心に議論した。

そっと隠しておこうか。しかしこれほど広い面積の群生地はやがて知れ渡り、インターネットに書き込まれるのは必至だろう。すれば踏み倒されて群生地の壊滅は時間の問題でないか。むしろ公



クリンソウとジャケツイバラ

開して、管理していることを周知させ、地元住民や多くの目で監視する方が守れるのではないか。結果「多紀連山のクリンソウを守る会」の結成に至り、公開と保護と相反することに敢えて取り組んでいる。

結成時は発見グループ数人であったが、公表と同時に地元住民、自治会、自然愛好者など賛同者が続々と増え250人になっている。

公開2年目の2010年は観察路を増やし、地図入りのパンフレットも製作し保護の大切さを訴えた。約3500人が訪れた。観察者のマナーは大変よく、盗掘、ゴミは一切なく、驚くほど美しく現場が守れた。

兵庫県内各地は元より、近畿各地に四国、岡山、鳥取からも観察者があった。異口同音に「美しく素晴らしい」「花に感動した。保護していつまでも残して欲しい」の声に励まされ、会員一同保護

に意欲を燃やしている。

*趣旨に賛同する方の入会を歓迎します「会費1年1000円」申し込みは下記まで



群生地観察会

クリンソウは湿地植物であり、現場は水源が確保されなければならない。出来るだけ現場の状況を変えない方針で観察路を設定したが水脈にどのように影響があるのか不安もある。冬の現地は動物の足跡に荒らされた泥田状態でとても桃源郷とは同一地とは思えない景色である。兵庫県立人と自然の博物館の指導を受け、群落地に定点観察地を設定し、株数、花数、段数、葉数などを調査し、年度変化を調べている。葉数と花数は当然比例する傾向だが、茎径と開花には法則が見られない。まだ調査を始めたばかりで今後を待ちたい。



現地定点観測調査

■連絡先

代表者 樋口清一
〒669-2303 兵庫県篠山市瀬利92-3 みたけ会館

TEL : 079-552-3596
FAX : 079-552-3596

■E-Mail : ishida@isi-net.jp

■主な活動地名

多紀連山県立自然公園

湿地を守るホトケさま

丹波地域のホトケドジョウを守る会

ホトケドジョウは、日本固有種でこれまで1種とみなされていましたが、1993年にホトケドジョウ (*Lefua echigonia*) とナガレホトケドジョウ (*Lefua* sp.) の2種がいることが明らかになりました。2種とも4～6cmと小さな体で、ヒゲが4対ある愛嬌のあるドジョウの仲間です。

ホトケドジョウは東北地方から兵庫県にかけて分布し、山間から里にかけての湧き水が流れる水路やそれが流れ込む小さな沼で夏の水温が低いところに住んでいます。一方、ナガレホトケドジョウは、福井から京都・和歌山・兵庫を中心に四国の徳島・香川に分布し、湧水とはそれ程関係がなく、角ばった石や砂礫のある山中の小さな沢に住んでいます。丹波市の由良川水系と加古川水系からホトケドジョウとナガレホトケドジョウの2種が、場所を違えて住んでいることが1994年に確認されました。ホトケドジョウは、兵庫県内では丹波市のわずか4ヶ所で確認されているだけで、



保護池完成

ここは日本の分布西限でもあり、生物地理学上極めて重要で貴重な生息地です。またホトケドジョウの住む湿地や沼は、懐かしい里の水辺の原風景を形づくっている大切な要素でもあります。ところが開発や圃場整備事業、森林の荒廃などで生息環境が悪化してその数が減少し、絶滅一步手前「風前の灯」の状態です。危機感を感じた有志で2006年「丹波地域のホトケドジョウを守る会」を結成し、新たな生息地発見のための探索と基本的な生活史を明らかにする調査を続け、この情報をもとに、地元の人たちの理解・共感を得ながら保全活動を行っています。

新たな生息地を探して、重点



小さいホトケドジョウは泳ぎ上手

的に篠山市の90箇所以上を探索しましたが、残念ながらまだ篠山市からは見つかっていません。丹波市水分れ資料館と丹波の森公苑の水槽で泳いでいますのでぜひ見に来てください。



野次馬で駆けつけた河合雅雄先生



山南・和田小学校での学習会

ホトケドジョウやナガレホトケドジョウの生態や保全に興味のある方、丹波地域の里の水辺環境に興味のある方、一緒に活動しませんか。

■連絡先

代表者 山科ゆみ子
〒669-3413 兵庫県丹波市春日町石才18

TEL : 0795-74-0259
FAX : 0795-74-0259

■主な活動地名

丹波市・篠山市

鳥好きの、仲間を増やそう丹波路に

丹波野鳥の会

丹波野鳥の会は、丹波地方（主に篠山市と丹波市）を活動拠点とする自然保護団体です。

丹波地方には、色んな野鳥が棲んでいて、誰にでも気軽に参加できる探鳥会を丹波でも開きたいという思いから、有志に呼び掛けて丹波野鳥の会が発足しました。

発足は2000年の11月で、ちょうど今年で10年目の節目の年に当たります。

日本で確認されている野鳥の種類は一般に555種類とかいわれており、それらのひとつひとつを姿や色彩、動作などで見極めていく楽しさは、バードウォッチングの何ともいえない楽しみのひとつでもあります。

野鳥の種類は、スズメなどの小鳥から、ワシタカ類などいろんな種類がいて、棲む場所や習性がそれぞれ違って、奥が深く面白いです。



探鳥会の風景



探鳥会の風景

又、日本列島は南北に長い国で、「夏鳥」「冬鳥」「旅鳥」の季節ごとの鳥に出会え、鳥をみて季節を感じることは、バードウォッチャーならではの、かなり得した気分です。

丹波野鳥の会の主な活動としては

- 1、1回/月程度の探鳥会の実施
- 2、丹波地方の野鳥の生息分布調査
- 3、近畿地区、ツバメのねぐら一斉調査に参加
- 4、全国一斉ガンカモ科鳥類・ハクチョウ類生息調査に参加
- 5、タカの渡り調査 春季：秋季
- 6、野鳥の勉強会などを実施しています。

次に、丹波地方のたくさんある中での、ひとつの探鳥地を紹介します。



丹波市で撮影したクマタカ〈左〉
丹波の探鳥地のひとつ〈右〉

鏝市ダム（篠山市）

メートルリンクの書いた「幸せの青い鳥」を見ようと思えばこの場所に行けばよいだろう。夏の青い鳥は、夏鳥として繁殖のために日本に渡ってくるオオルリです。

コマドリ、ウグイスと共に日本三鳴鳥とよばれる美声の持ち主で、新緑の中でその鳴き声をたどれば、枝先にその青い姿を見ることができよう。

冬の青い鳥は、西日本に越冬のために渡ってくるルリビタキで、地鳴きは「ヒッ」「カッ」だが、冬場でもテンポよくさえずることがある。

また真っ白な雪の中で、ほんのりイチゴジャム色をしたベニマシコを見つけたときは、とっても得した気分になれる。



勉強会の風景

- 1、クマタカなどの、生態系の頂点に立てる鳥類が生息していける自然環境を残したい。
- 2、野鳥の観察を通じて、自然を愛する仲間づくりと、豊かな心を育てる。

会員は随時募集しています。

入会資格は問いません。

自然を愛する心をお持ちの方なら、どなたでも入会できます。

ご希望の方は、E-mailかfaxか郵送で、事務局までお問い合わせください。

■連絡先

代表者 梅津節雄

〒669-3575 兵庫県丹波市氷上町小野622

TEL : 0795-82-0718

FAX : 0795-82-0718

■ホームページ <http://blog.goo.ne.jp/torisan1424/>

■E-Mail : tanbo1424@iris.eonet.ne.jp

■主な活動地名

丹波市と篠山市

笑顔が集うギフチョウの里づくりーギフチョウの飼育から自然界での繁殖・生息へー

丹波市春日町多田 保月の里づくり協議会

1. 魅力いっぱい丹波保月の里

国指定史跡黒井城跡のある猪ノ口山を中心とする山並みと黒井川、竹田川に囲まれた広大な緑豊かな田園地帯、この美しい環境を次世代につなぐべく3ヵ年の討議を経て作成した保月の里づくり計画が2006年3月地区整備計画として兵庫県の認定を受けた。この計画を担保するための組織として、里づくり協議会を設立し、以後、毎月会議を重ねるとともに、地域住民、団体に環境整備ボランティア活動を呼びかけている。

キャッチフレーズとして「笑顔が集うギフチョウの里」としたのは、この地区内の山裾にカンアオイ自生が多く見られ、ギフチョウ（絶滅危惧種に指定されている）が生息する好条件があり、現在、飼育保護により、毎年春にギフチョウの羽化や飛ぶ姿が見られる。もう少し環境を整えば自然の中で生育していくことになると確信している。いわば、ギフチョウの舞う姿は、自然環境再生の指標となるものと考えている。



春の女神ギフチョウ



ギフチョウの幼虫が食べるカンアオイ

当然のこととして、四季折々の自然に親しめるよう、サクラ、モミジ、コバノミツバツツジ、サツキ、アジサイなど植樹活動や、山裾散策道の草刈り、散策道案内表示作成などしながら、環境整備を進めている。

2. 保月の里の自然条件とギフチョウ

多田地区保月の里の山裾には賀茂神社の森、圓光寺の森、そのほか3つの谷にカンアオイの自生地がある。ギフチョウの産卵場所、幼虫の餌となるカンアオイがこれだけ自生している地域は少ない。自生地の保護をしながら、量的に十分ではないので、8年前より株分けや移植でカンアオイの株数を飛躍的に増大させた。

現況では、ギフチョウ産卵後のカンアオイを摘み、屋内で孵化させ、幼虫からサナギになるまでカンアオイの葉を与えながら成長を見守っている。翌春3月末から4月上旬羽化後圓光寺裏山にある3m四方の飼育ゲージに放蝶することにして

いる。2010年春で約200匹が羽化した。飼育ゲージの網が隅から逃げ出し、周りのカンアオイや300メートル離れた賀茂神社の森まで飛んで行き、産卵しているのが確認された。

天気の良い花見の最中に、飼育ゲージから飛び出した数匹飛んでいるのを確認し、同席者も驚いた様子であった。

年間通じて考えれば、ギフチョウの活動時期は3月下旬から6月である。その期間以外では、カンアオイを育てることや、成虫期間に蜜を吸う花（サクラ、ツツジ、カタクリ）などの栽培を考えたいかねばならない。

3. 自然の中で産卵から成虫そして羽化をめざして

ギフチョウは羽化、交尾後、周辺のカンアオイや、かなり離れたところまで飛んでいき産卵することが確認され、その場所で、孵化後カンアオイを食べて成長するところまでか確認できている。しかし、その後、どのように、サナギとなり夏、秋そして越冬しているかは未確認である。推測ではあるが、倒木の下や、落ち葉や枝の堆積しているところでサナギとなっていると考えている。

自然界での生息を考える上で重要なポイントとして、羽化後の蜜を吸う花の存在がある。現在飼育ゲージでは、ムスカリ、サクラソウの鉢もの、サクラ、ナノハナの切花を置いている。自然界では、さらに、コバノミツバツツジや、羽化と開花が合うカタクリの栽培などが求められているところである。

自然界での産卵から翌年の成虫までを考えると、成虫になる確率は100分の1以下とも言われ

ており、現況の飼育方法をしばらく続けると共に、一層自然界での生息の条件を広げていく手だてをしていく必要がある。

4. 課題

保月の里に飛び交うギフチョウは自然環境復元の指標のひとつとしているが、一方、里山が文化学習林の機能を有しているかが重要な課題でもあり、小学校児童の校外学習の一環として遠足兼ねて観察会をしたり、地域内外の人にも開放して観察会を計画して関心を高める努力を重ねたい。

作業的にはかなり個人の動きになり、ギフチョウ飼育がとく個人趣味として見られがちであるが、保月の里のシンボルとしてのギフチョウを鑑み、年間の作業に関わる地域ボランティア組織を拡充していきたい。



成虫から産卵まで見られる賀茂神社の森

■連絡先

事務局 豊田義孝
〒669-4125 兵庫県丹波市春日町多田428

TEL : 0795-74-0623
FAX : 0795-74-0405

■ホームページ <http://hogetunosato-enkouji.or.jp>

■E-Mail : toyoda@hogetunosato-enkouji.or.jp

■主な活動地名

丹波市春日町多田 賀茂神社及び圓光寺の森一帯

森と遊び森に学び・森を守ろう。

森の螢調査隊 in 丹波



ゲンジボタル。約40年前の状況まで回復(左)
 ヘイケボタル。丹波各地で激減状況の中に新たな棲息地(中)
 ヒメボタル。兵庫県は勿論、国内有数の棲息地域(右)

当会は、平成12年に県立人と自然の博物館の足立勲・八木剛両先生の呼びかけ及び指導の下に丹波地域のヒメボタルの棲息状況調査のために発足(総員;21名内山南町;4名)した調査隊が元であり、翌年平成13年に山南町独自に『森の螢調査隊 in 丹波』を立上げ現在に至る。

当会の特徴は、代表(藤原利正)以外の役職・組織・会則・活動資金をもたず、会員は活動に参加すれば無条件で即会員、但、会員名簿は作らず。

通常の活動資金、大きなイベントを計画した時の資金・要員は、友好団体に全面的に依存し実施しており、会員間の意志の疎通は、電話・調査活動時・他の団体の活動時等)と極めて合理的(無責任・身勝手)な活動形態をとっている楽しい会です。

◎ 協力願っている友好団体; 梶自然愛好会・丹波農村ビオトープ連絡会・漢方の里ワクワク隊・さんなん観光ボランティアガイドの会・丹波地域ビジョン委員会・丹波市商工会山南支部等。



移動はくぶつ館展示の一例。加古川水系(山南町内)魚類30種以上展示。

『主たる活動内容』

◎ ヒメボタル棲息調査; 平成12年度より継続調査。

○ 平成21年度実績; 調査日数43日・延調査員103名口延調査カ所437カ所・確認カ所246カ所

※ 調査報告 A-4版37ページを300部作成し関係機関・関係者等に配布。

◎ ヒメボタルサミット開催; 平成15年7月5日実施約40団体・250名参加。

※ 梶自然愛好会・山南町商工会・丹波地域ビジョン委員会の全面協力を得る)

◎ ひと1まく移動博物館受入れ; 平成15年10月会場; 山南町商工会あらやホール

※ 梶自然愛好会・山南町商工会・丹波地域ビジョン委員会の全面協力を得る)

◎ 姫ボタルまつり実施「平成18年度より継続実施(実行委員会の中核として参加)



ヒメボタル棲息地一例。漆黒の間の中に神秘的な光の競演。

■連絡先

代表者 藤原利正

TEL : 0795-76-1584

FAX : 0795-76-1584

○平成21年度実績; 観察会4回実施・参加者総計約2,500名

※ 他の実行委員構成団体; 梶全愛好会・丹波市観光協会・漢方の里ワクワク隊他

◎ ヒメボタルを通じての自然環境啓蒙活動。

○ 姫ボタルまつりのチラシを丹波市内の全小学校・幼稚園に人数配布(初回より継続)

○ 04、学校の総合学習(4年生)の一環としてヒメボタル観察指導(3小学校)

○ トライやる・ウィーク活動の一環として、一晚ヒメボタル棲息調査指導(2中学校)

○ 地域住民対象のヒメボタル鑑賞会実施。

以上が我『森の螢調査隊 in 丹波』の活動の概要ですが、当会の活動の基本は『地道な自然環境調査活動に光を』であり、ヒメボタルを自然環境保全のシンボルとして、但馬のコウノトリし並び丹波のヒメボタルを兵庫県の『自然との共生』のシンボルにするのが我々の活動の最終目標です。



ヒメボタル観察会の一瞬。あ!光つた、ここにも・あつちにも。



ヒメボタルの里ですよ。国道沿いに『のぼり』でヒメボタルの里アピール。

■主な活動地名

兵庫県丹波市山南地域



ボタルの楽園。ゲンジボタル・ヘイケボタル・ヒメボタル3者一堂に。

人と野生動物との共存をめざして

兵庫県森林動物研究センター

兵庫県は、瀬戸内海から日本海まで広がる広い県土と豊かな自然や変化に富んだ地形に恵まれ、約40種の獣類と約330種の鳥類の生息が確認される多様な自然生態系を形成しています。ところが、近年シカやイノシシなど増加の著しい野生動物による農林業被害額は年間七億円と深刻な状況にあります。その一方で、絶滅が危惧されるツキノワグマによる人身被害や精神被害、人を恐れないサルの群れの出没など様々な問題が生じています。

兵庫県ではこれらの人と野生動物とのあつれきを解消することをめざし、「ワイルドライフ・マネジメント（野生動物の保安全管理）」を推進しています。ワイルドライフ・マネジメントとは、野生動物の生息状況や行動特性、生息地である森林の状況など動物側の状況を適切に把握するとともに、被害の実態や問題発生要因など社会的な状況を適切に把握し、目標を定め、科学的で計画的な管理を実施していくものです。



里に出没したニホンジカ

このワイルドライフ・マネジメントを科学的計画的に実施していく拠点として、森林動物研究センターは平成19年4月に丹波市青垣町に設立されました。研究センターは、科学的なデータ収集と解析を行う研究部と、それらの情報をもとに被害現場や出没現場で適切な対策を実践する業務部により構成されています。業務部には、森林動物専門員が5名の配置され、現場対応を行っています。

ニホンジカによる深刻な農林業被害の低減に向けたプロジェクトでは、防護柵の適切な設置管理手法の指導や新型捕獲ワナの開発による大量捕獲技術、捕獲後のシカを地域資源として有効に活用していくための方法など、具体的な管理を推進する活動を行っています。さらにこれらの推進の根拠となるシカの生息状況の把握や個体数推定、森林の衰退度調査、ニホンジカにおける人畜共通感染症のサーベイランスなど多様な調査研究を実施しています。



兵庫県森林動物研究センター

■連絡先

代表者 所長 林 良博
〒669-3842 兵庫県丹波市青垣町沢野940

TEL : 0975-80-5500
FAX : 0975-80-5506

■ホームページ <http://www.wmi-hyogo.jp/>

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

セミナー・講習会の開催／共同調査・研究

ツキノワグマによる精神被害・生活被害を低減し、絶滅を回避するためのプロジェクトでは、出没時に適切な対応を行うとともに、クマの行動を分析し、被害を適切に回避するための指導を関係部局と連携して行っています。

このほか、ニホンザルによる出没被害を回避するための追い払いの指導や追い払いを行うための「サルばい犬」の育成事業、さらに外来生物であるアライグマの効率的な捕獲方法の開発などを行っています。

研究センターでは、兵庫県の豊かな自然環境を保全するとともにその自然から恩恵を受けながら経済活動が行える地域振興に役立つ取り組みをめざして活動を行っています。



森林動物専門員によるツキノワグマの捕獲作業



里に出没したニホンザル



学習放獣されるツキノワグマ



■交通アクセス



〒669-3842 丹波市青垣町沢野940
TEL 0795-80-5500 FAX 0795-80-5506

国蝶・オオムラサキが舞う森づくり 兵庫県立丹波の森公苑

丹波の森公苑は、自然と共に生きる地域社会、潤いと安らぎのある地域社会、活力ある地域社会の3つの理念のもと、地域社会のシンクタンクの役割を果たしています。具体的には①生活創造活動支援 ②芸術文化の振興 ③森林文化の創造に取り組んでいます。森林文化の創造:森づくり(森づくりから街づくりおよび人づくり)の1事業、「オオムラサキが舞う森づくり」について紹介します。オオムラサキは准絶滅危惧種で丹波地域でもほとんどの人が見たことがない状況です。スギやヒノキの植林が進み幼虫の食樹エノキ、樹液酒場をつくるクヌギなどが少なくなったことが1要因のようです。

困のようです。

丹波の森公苑は20年前、河合雅雄名誉公苑長の壮大なる夢の実現に向けて、エノキ176本、クヌギ500本が植栽されました。

公苑全体はやや乾燥地ですが樹液酒場ができクワガタ、カブトムシが棲息するまでになりました。2007年、橿原昆虫館の支援を受け、オオムラサキを見て触れる展示・体験観察用の飼育を始めました。年間約3000名の見学者があります。一方、2008年から丹波地域の里山にオオムラサキが舞う森づくりを目指して丹波産の個体を増殖しています。丹波地域の子ども達がオオムラサキを通じて、生き物や自然に親しむことを目指し要望のある小学校に簡易ネットケージをつくり丹波産の個体を飼育し、常時観察できるようにしています。2010年は7校で実施しています。



600mにおよぶエノキ並木



クヌギの樹液酒場



展示用飼育ケージ(100㎡×高さ4~5m)は通年見学者が見て触れる観察体験ができる。



越冬幼虫探し
第1ケージの中で里山の女王、オオムラサキが越冬する場所や姿を観察し、越冬数を数える。



■連絡先

代表者 公苑長 中瀬 勲
〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原5600

TEL : 0795-72-2127
FAX : 0795-72-0899

■ホームページ <http://www.tanba-mori.or.jp>

■E-Mail : Koen25@tanba-mori.or.jp

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

丹波地域の分布調査／棲息地の環境調査／丹波産の増殖
出前教室／見学者が観て触れられる展示飼育



丹波産増殖飼育(25㎡×高さ4m)オオムラサキが舞う丹波の森(里山)を目指し丹波地域で越冬幼虫を採集し増殖を図っている。



丹波産個体を用いて小学校に簡易ネットケージをつくり観察及び環境教育を努めている。



7月には公苑内で一般参加者と一緒に放蝶会を行っている。



子ども達が見て触れて体験観察する幼虫や蛹に触ることも達



出前授業 中央小学校3年生飼育観察風景
オオムラサキを観察し、命のつながり、生き物のしくみを知る。

羽化



成虫♀



羽化は3分間のドラマ。背中の部分が割れ翅の縮んだ体が出て、黄色い2本のヒゲが1本の口吻になる。翅が固まるまで約5時間静止する。

丹波の森公苑案内図



■交通アクセス

電車 神戸方面(約1時間50分) JR三ノ宮駅-JR尼崎-JR柏原下車
大阪方面(約1時間30分) JR大阪駅-JR篠山口-JR柏原下車
但馬方面(約1時間20分) JR豊岡-JR福知山-JR柏原下車
柏原駅から徒歩約15分

車 神戸方面(約1時間30分) 若狭舞鶴自動車道 丹南篠山口IC R176号を北上
大阪方面(約1時間20分) 同上
京都方面(約1時間50分) 京都縦貫、舞鶴自動車道 春日IC R175号を南下
姫路方面(約45分) 播但道 中国自動車道 滝野社IC R175号を北上